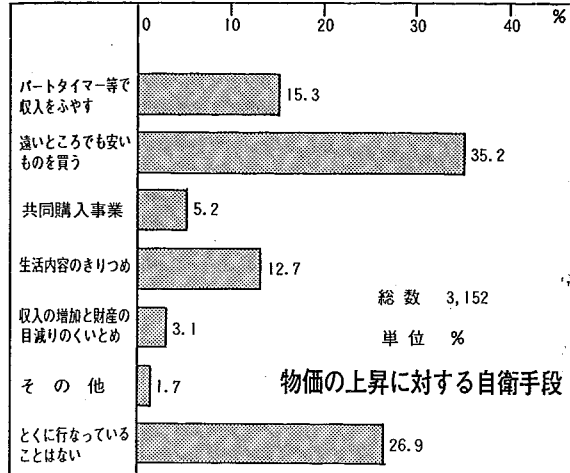


邪魔して お聞きしました

物価急騰が 生活を圧迫

国民生活センター
の物価調査から

秋葉マンションの若い二人のママさんは、買い物に行くたびに値段が上っているのビクリリしています。こんな上に上がってしまうと、もうあきらめが先に立ってしまいます。それに、物価の上昇に対する市民の自衛手段を調査した結果を発表しました。それによると、最近の物価急騰で「生活の圧迫」を感じている主婦が九二%に達しているという結果が出ています。左のグラフを見てく



すすめる生活物資対策

消費者対販売者 市民生活の安定に 対話の場

ではここで、私たちのまわりにもとてみましよう。消費生活の安定をはかるため、市では、この春からモニター制度を取り入れ、販売者、消費者に呼びかけては「対話の場」を設け、この高物価に真摯に取り組んでい

ここでは、消費者を守るといふことが大きなものですが、しかし、これによって販売店を苦境に立たせては大変です。販売店が正しい販売を



売り手、買い手も熱心に考える懇談会

市では、今年二月、消費者、業界、金融機関、婦人団体、商店街などの関係者が話し合う場「生活関連物資対策懇談会」を発足させました。懇談会は、市民生活に直接関係する高い物資について、その価格

石油 ○：お寝みになる三十分前にストーブを消しても、部屋のあたたかさは、それほど変わりません。例えば、六畳の洋間で室温が二十度の場合、ストーブを消してから三十分たっても、室温はわずかに下がります。六畳用ストーブの場合、三十分もすると約〇・二リットルの油を使いますから、一月で約三・六リットルの節約ができるのです。○：石油ストーブを買うときは、部屋の大きさや使用の方を考慮して機種を選びましょう。大きすぎて汗をかくたりしては、かえってかぜのもとです。○：ふつとの道路では、時速四十キロメートルで、高速道路では八十キロメートルで走るのが経済的なガソリンの使いかたです。仮りに百キロから八十キロにスピードを落とすと、一〇%〜二〇%ガソリンが少なくて済みます。○：自動車のタイヤの空気圧は、常に適正にたもちましょう。仮りに空気圧が三〇%不足すると、ガソリンは約八%余分に使われます。

「消費者の権利を守って」 「物価」に取り組む二団体

市には、いろいろななかたちで「物価」に取り組んでいる団体やグループがありま

「物価」に取り組む二団体

す。消費者協会と生活学校をご紹介します。

消費者協会は、消費者自身としての意識を高め、権利を守ってこうとして活動しています。

事務局を市役所商工観光課内に置いて、昭和四十五年六月に七十名の主婦たちで発足したのですが、現在では百

三十八名と大きくなりました。生活不安が続く中でこそ消費者の権利をもう一度取り返して見よう。

□一人ひとりが、物価の監視員である自覚をもとう。

□消費者は力強い団結を示そう。——をモットーに、長岡市

消費生活センターや湯之谷村山菜加工農協などの現地視察それに物価調査などもして一生懸命勉強しています。

また先ごろでは、商品表示法の説明会や販売店との懇談会を開いたりして「不当表示」広告はどういうものか、「正しい買い物、経済的な買い物をすすめるよう」など、市民研修をつんでい

でんき ○：電気冷蔵庫は発熱するもの（コンロ、ストーブなど）のそばや、日光の直射を受ける所におくと、余分な電力を使います。熱源の近くに置かずに、日あたらない場所に移動し、電力は三〇%少なくて済みます。○：電気コタツを使うときは、下にマットなどを敷くと熱をにぎらせます。「弱」でもよいあたったかきで保てます。これで約二〇%電力を得ます。壁やカーベットの間に敷かず、マットなどの上に敷きましょう。○：瞬間映像式のテレビは画面が消えていくので、常に六ワットぐらいの電気が流れています。一月にテレビ一台で約三キロワット時、全国で約七千八百万キロワット時がむだに使われていることになりました。テレビを見ないときは、プラグをコンセントから抜くか、メインスイッチを切りましょう。特に深夜は番組がないのですから。



「私たちも困っています」と川崎さん

また、タラノコなんか、本当は無着色のものを売りたいんですけれど、お客様が買ってくれない。ナマ物ですから、その日のうちに売られなければ捨てるしかありません。消費者協会のかたたちのいうように、私たちも、そういうのを売りたいんですけれど、お客様が買ってくれない。買わなければしょうがないです。すねえ。

便乗値上げについては？

「私たちは店の信用が売り物ですから、そういうことはやりません。結局、長い目でみれば損になるんですから」「インフレに対処するには、合理化するしかないわけですが、経費のうちの半分以上を人件費で、三分の一はでへらせば健全経営になるんです。客数をへらすと、お客様の苦情がきますし、頭の痛いところです。結局、私たち業者も、消費者の皆さんも、インフレに対処する方法は、上手な節約、これしかないと思いますよ。」

「行政に対する要望ですが、ウーン、難しいと思います。けれど、メーカー段階での国の規制をもっと強めてもらいたいですね。つまり、出荷規制とか、品不足状態の解消ですね。それと、去年のパンツクのような、行政のタイムミスのずれをなくして、もっと先手先手と手を打ってほしいことですね。」

忙しい中、川崎さんは心よく質問に答えてくれました。

このほか、ゴミ問題から、資源回収の問題から、不用品などの交換販売会、過剰（不用）包装などの調査も行っている。意外に長いものです。